

植物生育調節剤の利用によるシンビジウムの草姿改善技術							
【要約】シンビジウムの開花予定株への植物生育調節剤(矮化剤)処理により、花の品質に影響を与えずに草姿を改善し、鉢花としての品質を向上させることが可能となることが判明した。							
三重県農業技術センター・花植木センター栽培担当					連絡先	0593-70-4977	
部会名	野菜・花き	専門	生理	対象	花き類	分類	研究

【背景・ねらい】

シンビジウム生産では、苗の導入価格が高く、また苗の導入から出荷までの栽培期間が長くかかり苗の廃棄も多いこと、さらに大型品種では葉が伸び過ぎることによる製品の品質低下などが経営を不安定にしている。そこで開花率向上と草姿改善による製品の品質向上を図るため、植物生育調節剤(矮化剤:ウニコナゾールP、パクロブトラゾール)の利用による効果の有無を検討する。

【成果の内容・特徴】

- ①矮化剤処理は、開花予定芽が20~30cm(展開葉3枚程度)の時期までに行う。
- ②葉長は、矮化剤の処理量に反比例して短くなり、無処理に比べて最大約40%短くなる(表1)。葉長短縮効果は、ウニコナゾールPの1mgかん注がパクロブトラゾールの10mgかん注に比べて著しく、一方、散布よりかん注で強い効果が認められる(表2、図1)。
- ③葉幅は、矮化剤の処理によってやや広くなり、葉長が短くなることによって葉長/葉幅の比率が、矮化剤の処理量に反比例して小さくなるため、外見上葉形が幅広い感じを受ける。
- ④花茎は、矮化剤の影響を殆ど受けず、花茎長、花数、花の大きさなどの品質に差は認められない(表1、2)。
- ⑤供試した矮化剤では、花芽数の増加等の開花率向上効果は認められないが、草姿改善効果は顕著に認められる。

【成果の活用面・留意点】

- ①草姿の乱れやすい品種、葉が懸垂する傾向の品種における草姿改善に利用できる。
- ②処理量を間違えると商品性の無い製品になる危険性が高い。

【具体的データ】

表1. ウニコナゾールがシンビジウムの生育に及ぼす影響調査結果(1991年)

品 種	ヒロシマポイント 'アポロ'					かぐや姫				
	最大葉長 cm	葉幅 mm	花茎長 cm	花茎数	1花茎小花数	最大葉長 cm	葉幅 mm	花茎長 cm	花茎数	1花茎小花数
無処理	83.1	41.3	64.7	2.00	11.5	104.3	30.5	67.0	3.00	11.5
100ppm	77.0	42.8	64.0	2.20	10.4	85.5	31.7	63.7	4.00	13.6
0.25mg	81.7	41.4	65.6	2.50	11.2	96.3	29.3	65.8	3.14	13.5
0.5 mg	69.7	43.6	61.4	2.44	10.9	86.4	31.0	60.3	3.25	13.2
1.0 mg	66.8	44.5	61.8	2.29	11.7	75.0	33.0	62.2	3.50	12.9
2.0 mg	61.0	43.3	61.6	2.57	15.1	66.5	34.3	60.5	3.20	14.4

注) ppm: 散布処理区、mg: かん注処理区

表2. 植物生育調節剤がシンビジウムの生育に及ぼす影響調査結果(1992年)

品 種	処理薬剤名	スリ-ビヅィウム 'テトラホワイト'					パル-フラワー 'ロマンシア'			
		最大葉長 cm	葉幅 mm	花茎長 cm	花茎数	1花茎小花数	最大葉長 cm	葉幅 mm	花茎数	
無処理		81.8	33.0	49.3	1.50	9.5	9.7	97.5	29.4	0.71
ウニコナゾール P 100ppm		62.3	35.6	50.0	2.40	11.3	10.2	74.9	30.7	0.80
ウニコナゾール P 1 mg		59.5	34.2	51.8	2.15	11.4	10.0	64.8	32.4	0.62
パクロブトラゾール 1000ppm		74.1	37.0	52.1	1.68	9.6	11.0	93.5	31.4	0.95
パクロブトラゾール 10mg		64.1	38.2	48.5	2.00	9.6	10.3	90.1	32.9	0.63

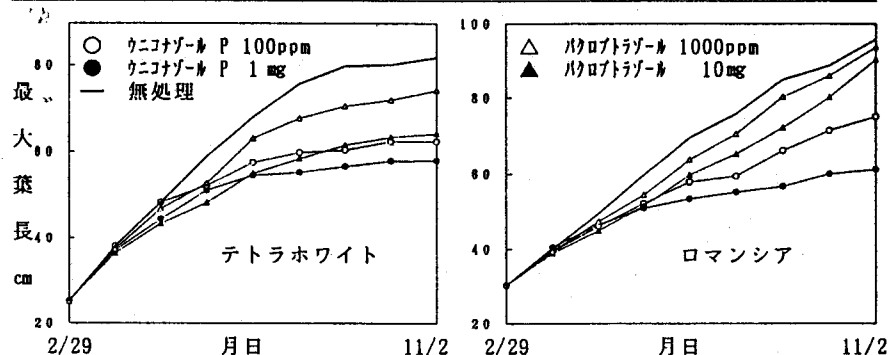


図1. 植物調節剤がシンビジウムの葉長伸長に及ぼす影響(1992年)

【その他】

研究課題名: シンビジウムの生育期短縮栽培技術の確立  
(開花率向上と草姿改善のための植物生育調節剤利用)

予算区分: 県 単

研究期間: 平成4年度(平成2~4年)

研究担当者: 中野 直、鎌田正行、西田悦造

発表論文等: